

小児摂食障害の治療と対応マニュアルの作成及び検証

分担研究者 作田 亮一 獨協医科大学 小児科学 教授

研究協力者 大谷良子¹⁾, 井上建¹⁾, 北島翼¹⁾, 高宮静男²⁾, 岡田あゆみ²⁾, 荻原かおり³⁾,
井口敏之⁴⁾, 鈴木太⁵⁾, 公家里依⁶⁾

1) 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター, 2) 岡山大学小児科, 3) TIP 二子玉川、心理士, 4) 星ヶ丘マタニティー病院, 5) 福井大学子どものこころの発達研究センター児童精神科, 6) 信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部

研究要旨

本研究は、小児摂食障害の治療と対応マニュアルの作成及び検証することを目的とする。1) 小児治療マニュアル作成、2) 家族療法(Family Based Treatment; FBT)マニュアル作成、3) 養護教諭向けマニュアル検証の3つの目的に沿って、文献の収集、Curiosity Quotient (CQ)の作成、養護教諭向けマニュアル使用状況調査を実施した。

A. 研究目的

小児摂食障害の治療と対応マニュアルの作成及び検証することを目的とする。

で、必要な項目も抽出する。デルファイ法を採用する。

B. 研究方法

3つのワーキンググループを構成した。

1) 小児摂食障害治療マニュアル作成ワーキンググループ(WG)、2) 家族療法 (Family Based Treatment; FBT)マニュアル作成WG、3) 養護教諭向けマニュアル検証WG

各WGには、小児科医、児童精神科医、心理士が加わった。マニュアルはエビデンスレベルの高いものとするが、Medical Information Distribution Service (MINDs) に沿った方法はとらない。摂食障害学会のガイドラインの Curiosity Quotient (CQ)を参考にする。CQ以外の項目

C. 研究結果

1) 小児治療マニュアル: 主な治療に関する文献の検討を終了し、CQを作成した。2) FBTに関わる文献の収集を行った。3) 養護教諭向けマニュアルの使用状況に関するアンケート調査を全国養護教諭を対象に実施した。4) 上記、研究概要を第25回日本摂食障害学会シンポジウムで報告した。

D. 考察

1) 得られたCQに関するステートメントをまとめデルファイ法を用いて検討しま

マニュアルを作成する。2) 小児マニュアルと同様に行う。3) 作成したアンケートを全国養護教員会の協力を得て配布し結果を 26 回摂食障害学会において報告する。

F. 健康危険情報結論

本研究による健康危険は考えられない。

G. 研究発表

1. 論文発表
 - 1) Inoue T, Togashi K, Iwanami J, Woods DW, Sakuta R.: Open-case series of a remote administration and group setting comprehensive behavioral intervention for tics (RG-CBIT): A pilot trial. *Front Psychiatry*. 2022 Jul 26;13:890866. doi: 10.3389/fpsy.2022.890866. eCollection 2022.
 - 2) Nagamitsu S, Kanie A, Sakashita K, Sakuta R, Okada A, Matsuura K, Ito M, Katayanagi A, Katayama T, Otani R, Kitajima T, Matsubara N, Inoue T, Tanaka C, Fujii C, Shigeyasu Y, Ishii R, Sakai S, Matsuoka M, Kakuma T, Yamashita Y, Horikoshi M.: Adolescent Health Promotion Interventions Using Well-Care Visits and a Smartphone Cognitive Behavioral Therapy App: Randomized Controlled Trial. *JMIR Mhealth Uhealth*. 2022 May 23;10(5):e34154. doi: 10.2196/34154.
 - 3) Kitajima T, Otani R, Inoue T, Matsushima N, Matsubara N, Sakuta R.: Sensory processing in children and adolescents shortly after the onset of anorexia nervosa: a pilot study. *Biopsychosoc Med*. 2022 Dec 12;16(1):27. doi: 10.1186/s13030-022-00256-z.
 - 4) Kitajima T, Otani R, Inoue T, Matsushima N, Matsubara N, Fujii A, Ban S, Sakuta R.: Cerebellar tonsillar herniation in sudden death of an adolescent anorexia nervosa patient: a case report. *Eat Weight Disord*. 2022 Oct;27(7):2937-2941. doi: 10.1007/s40519-022-01377-8. Epub 2022 Feb 16.
 - 5) Ishii R, Obara H, Nagamitsu S, Matsuoka M, Suda M, Yuge K, Inoue T, Sakuta R, Oka Y, Kakuma T, Matsuishi T, Yamashita Y.: The Japanese version of the children's sleep habits questionnaire (CSHQ-J): A validation study and influencing factors. *Brain Dev*. 2022 Oct;44(9):595-604. doi: 10.1016/j.braindev.2022.06.003. Epub 2022 Jun 30.
 - 6) Imataka G, Sakuta R, Maehashi A, Yoshihara S.: Current Status of Internet Gaming Disorder (IGD) in Japan: New Lifestyle-Related Disease in Children and Adolescents. *J Clin Med*. 2022 Aug 4;11(15):4566. doi: 10.3390/jcm11154566.
 - 7) 田中恭子, 小川悠, 平井ゆり, 埴佳生, 伊藤隆一, 澤田雅子, 林泉彦, 松本勉, 大戸秀恭, 鈴木 育夫, 作田亮一, 永光信一郎: コロナ禍を機に生物心理社会的視点で考える子ども: アドボカシーと心の診療連携. *小児保健研究* 81(5)、2022

- 8) 荒川明里、大谷良子、小木曾梓、岩波純平、吉田有希、黒岩千枝、中込美香、水島栄、松島奈穂、松原直己、北島翼、井上建、越野由紀、田副真美、作田亮一：入院治療を要した神経性やせ症の双子2症例：心理学的評価による家族内力動の検討. 子どもの心とからだ 31 (1)、16-22, 2022
2. 学会発表
- 1) 作田亮一,北島翼,井上建,大谷良子. : 児童・思春期における摂食障害の外来治療：効果的な治療とは？. 118回日本精神神経学会. シンポジウム 摂食障害を外来で効果的に治療する. 2022.6.17. オンライン
- 2) 作田亮一. : 小児科医が診る児童・思春期摂食障害. 25回 日本摂食障害学会会長講演、2022.10.15,オンライン
- 3) 北島翼, 小木曾梓, 岩波純平, 嶋田怜士, 森下菖子, 椎橋文子, 松島奈穂, 春日晃子, 井上 建, 大谷良子, 作田亮一 : 児童思春期神経性やせ症患者における自己身体認知と再栄養治療後の体重変化との関連. 25回 日本摂食障害学会 2022.10.15、オンライン
- H. 知的財産権の出願・登録状況**
1. 特許取得 なし
 2. 実用新案登録 なし
 3. その他 なし
- I. 参考文献**
- なし